



関也の地蔵菩薩、道標、五輪塔など(伊深町)

伊深町関也は交通の要衝として美濃と飛騨を結ぶ重要な街道でした。この辻には、今も多くの地蔵や道標などが建ち並び、人々の安全を見守り続けています。

正眼寺の開山無相大師が都へのぼられるとき、伊深村の人々が別れを惜しんでとなりまちの関まで見送ろうとしました。大師は「ここを関だと思って帰ってほしい」といって、村人をさとした伝承などが残っています。